

二〇二五年度

豊島岡女子学園中学校

入学試験問題

(二回)

国語

注意事項

- 一. 合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二. 問題は 一 から 三、2 ページから 20 ページまであります。
合図があつたら確認してください。
- 三. 解答は、すべて指示に従って解答らんに記入してください。

一 次の文章を読んで、後の一から九までの各問いに答えなさい。

(ただし、**字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。**)

新型コロナウイルスの感染を防ぐために「不要不急」の外出を控えるよう促された時期がありました。すると、観光地でのご当地グルメや外食向けの食材、そのころ予定されていたオリンピック需要を見込んだ食材が売り先を失って、生産者が困っているとニュースになりました。また、学生たちに影響を聞くと、居酒屋など宴会系でバイトしていた人は仕事がなくなって収入が激減したけれども、逆に、ファストフード系やスーパーでバイトしていた人は忙しくなったとのこと。ここから、「不要不急」の食と「必要」な食とが対比されて①興味深く考えたものでした。いかに今まで農業や食品産業が「不要不急」の食で、それほど必要でもない需要を増やして、市場を確保していたかと。

節分には「恵方巻」が販売され、毎年のようにその「食品ロス」が話題になります。恵方巻は、確かに節分にそれを食べる習慣も一部にはあったけれども、②1990年代にコンビニがそれを広めたとのこと。その他、クリスマスのケーキも、バレンタインのチョコも、正月のお節料理も、単なる文化というより、ケーキやチョコレート食品産業や、デパートなどの小売業が、仕掛けた背景が見えてきます。このような「イベント食」は、イベントが終わればロスになるのは当たり前。それでも販売のチャンスを作るため、必要以上に売るために、イベント食を仕掛けて売り出す。

コンビニのスイーツも、たまにしか食べない私は気に入った商品が次には売っていないことが多いです。コンビニは毎週火曜日に新商品を発売して、販売期間は1〜2週間の商品も多いとか。これも③日常的な消費財である食品を売り続けるための企業努力でしょう。

コンビニに限らずスイーツや加工食品に使われることの多い、砂糖と油脂と塩は、食品産業にとって「競争相手を負かすためだけでなく、消費者にもっと買わせるためにも利用される④兵器である」と指摘する本もあります。砂糖、油脂、塩は、生産コスト

を抑えてくれる安い食材であるだけでなく、これらを上手い塩梅に組み合わせると、人間の身体が必要とする以上に飲み食いさせることができる。米国にはそんな研究をする研究所があって、その成果を新商品の開発に「トラップ」として仕掛けて、発売しているそうです。

Aキシヨウな資源から最大の満足を目指す経済学的には、いかに多くを生み出すか（生産するか）に目が向がち。でも実際の企業や政策のBドウコウを調べると、いかに生産するかより、いかに売り続けるかが重要に見えます。

この「売り続けることの重要性」や、そのための新商品開発、市場開拓、販売促進、そして「需要を増やす」ための懸命な企業努力とそれを支える政府の策について学んだのは、私が博士論文で近代的な植物油産業の発展過程を研究したときでした（詳しくは平賀緑『植物油の政治経済学——大豆と油から考える資本主義的食料システム』昭和堂、2019年）。

産業革命以降、工場に労働者を集めて機械も使って売って儲けるための「商品」を作る資本主義的な生産が始められると、工場や機械や労働者をフル稼働するために、原料を大量に調達して大量生産するようになる。そのための原材料を、当時の帝国は主に植民地から調達しました。その名残もあって、今も特定の国が大量生産する食材を他の国々が輸入していることが多いです。大豆から搾油していた日本の製油会社の場合は、戦前は満州や朝鮮から、戦後には米国から、1970年代からはブラジルからと、時代によって調達先を柔軟に変えながら発展してきました。そうやって大量に生産した商品は、当然、売らなければ儲けになります。つまり、大量生産すれば、大量販売することが必要になります。市場がなければ新規に開拓してでも。じつは大豆油は戦前の日本ではほとんど食べられていなかったため、製油会社は油を欧米に輸出したり、軍需用に売り込んだり、国内でも一生懸命宣伝して、新商品開発や市場開拓に尽力して油脂の販売先を広げました。戦後には栄養改善や「フライパン運動」など、より大々的に油料理の普及活動を展開して、ようやく大豆油が日常的に食べられるようになったのです。

この、売って儲けるために作った「商品」は売らなければ儲けられないカラクリのため、企業側（供給側）から売り続けるため

の「需要」を促し消費を増やす、懸命な努力が行われます。次々と新商品を開発し、「欲しい」「買わなきゃ」と思わせて、「需要」を掘り起こし、売れるなら食用でも非食用でも分野を問わず市場を開拓して売り続ける。日本の製油業の場合は、肥料、輸出商品、軍需品、食用と柔軟に市場を移してきました。このロジックは、植物油や食品でなくても、製造業でなくても、この資本主義経済の中で利潤を追求する企業活動としては共通した当然の戦略といえるでしょう。

ファッションの世界にも、この戦略がありありと見られます。多くの人が「断捨離」や「捨てる技術」が必要なほど、多すぎる服をすでに持っている。「⑤」「ファッション業界は次々と流行を生み出して、毎年毎シーズン売り続けようとする。ファッション雑誌を開くと、「マストバイ」とか「今季はこれ!」とか、何だか買わないと流行に遅れてしまう、かっこ悪くなる、浮く、という不安まで与えて、必要以上に服を買わせる仕掛けが満載です。

今ではSDGs（持続可能な開発目標）が広まって、グリーンやエコな商品やリサイクル商品も増えています。そして消費者にこれらの商品を賢く選んで買って欲しいと訴えてきます。でも「自社の商品を買うのを減らしてください」という企業は、まず見かけません。3Rの中ではリデュース（減らす）が一番重要であるにもかかわらず。

売り続けることは、利潤を追求して成長し続けなくてはならない、資本主義経済における企業としては当然の行動。良し悪しは別として、それはある意味まっとうな企業の活動です。売り続けるために懸命に努力する供給側の事情がある。でもなぜ、食料自給率の低下や輸入に依存しているニュースの解説などでは、「消費者の需要」が理由として語られることが多いのでしょうか。

こんな目で始めると、もう「需要と供給の法則」を素直に見られなくなります。しかも、実際にモノの価格を決めている取引市場の現場では、小麦の価格を決めるシカゴ相場も、ドルや円の交換レートも、需要や供給より、ただ値動きで儲けようとする「投機筋」が9割方動かしているとのこと。

⑥金融取引はマネーゲームと考えた方が理解できると実感したのは、私が20歳代に香港の金融街で働いていたころでした。ある

日系証券会社の香港事務所に調査部アシスタントとして雇われたとき、仕事のために株式や金融の仕組みを勉強して、躓いたのでした。

株式について、教科書や入門書には、株を買うということはその企業を応援することとか、将来成長が期待できる企業へ投資すべきなどと書かれてあります。でも実際の証券取引の現場では、ディーラーたちが情報端末を見つめて、ローソク足とかチャートにいろんな線を描いて計算して、とにかく、今、市場で儲けられるか否かを短期決戦で勝負しているように見えました。とくに納得できなかったのが、NYダウや日経225などの指数先物取引でした。米国や日本の市場の平均指数の先物に投資するというがどういう意味か、私にとっては理解不能だったのです。そのお金がどこに行くのか、リアルで何に使われるのか、考えるわけがわからない。むしろ、リアルとの繋がりがりなど気にせず、その値動きで儲けられるか損するかマネーゲームだと割り切った考えたら、ようやく受け入れられたのでした。

小麦や大豆などのリアルに存在するモノの価格を決める商品取引市場（コモディティ・マーケット）においても、農家や食品企業ではない人たちが、小麦を持っていなくても必要なくても取引している。空売りなんて手元のないものを売る仕掛けがあったり、オプションで買う権利や売る権利を売り買いしたりする。これらはマネーゲームをいかに面白くするか（いかに儲ける仕組みを作るか）と生み出された仕組みなのだと考えた方が納得できたのでした。

（『食べものから学ぶ現代社会——私たちを動かす資本主義のカラクリ』 平賀 緑）

（注）

*1 相場——商品が取引される、その時その時の値段。

*2 値動き——価格の変動のこと。

*3 証券取引——証券を売買すること。証券とは、国や企業が資金を調達するために発行する債券や株などのこと。

*4 デイラー——証券を売買する人のこと。

＊5 ローソク足とかチャート——値動きや相場の様子を示したもの。

＊6 指数先物取引——未来の値動きの数値を予想して、先に売買を済ませておく取引のこと。

問一 —線A「キシヨウ」、B「ドウコウ」のカタカナを正しい漢字に直しなさい。

(一画一画でいいにはつきりと書くこと。)

問二 —線①「興味深く考えた」とありますが、どのようなことを考えたのですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 食品産業や農業が提供するものの消費は日常的なものが多いと思っていたが、「不要不急」の抑制を受けて初めて、外食産業が占める部分が多かったと気づき、意外だと考えた。

イ 筆者の生活には欠かせないと思いついていた外食やグルメ産業が感染症の拡大を防ぐために「不要不急」だと規制されたものの、思ったよりも不自由ではないのだと考えた。

ウ 新型コロナウイルスの流行がニュースで取り上げられ、それまで当たり前のように楽しんでいた外食が「不要不急」であるとならからの批判を受け始めたことが残念だと考えた。

エ 「不要不急」を抑制する風潮が宴会系の飲食店の営業に打撃を与えた一方で、売り上げを伸ばした業種もあるという理不尽ともいえる状況に、学生たちが不満を持つだろうと考えた。

オ 人間にとって「食事」というものは不可欠なものであつて食品を捨てるなど本来許されない行為なのに、まだ食べられるはずの食品を捨てる行為はとんでもないことだと考えた。

問三 —線②「1990年代にコンビニがそれを広めた」とありますが、その背景の説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 地域限定の食文化だった恵方巻えほうまきを全国の人に宣伝して地方の伝統的な食文化を大切にする意識を根づかせれば、全国ご当地グルメフェアなどの後発商品が売れると期待できるため。

イ 店舗数てんぽうが多く営業時間も長いコンビニで販売はんばいすれば、節分の日にしかなじゅよう需要のない恵方巻えほうまきであっても売り上げが見込みこめると戦略的に判断し、主要な商品として採用したため。

ウ 弱肉強食の経済社会では、自分の店は他と比べて特別だと示して消費者に選ばれる必要がある中、知名度の低い恵方巻えほうまきは新規性が高く独自の取り組みとして売り出しやすかったため。

エ 節分には恵方巻えほうまきを食べて当たり前だという流行を作り、「せっかくだし食べたい！」と望む心を刺激しげきすれば、買い物をしてもらう機会が必然的に増えると考えたため。

オ クリスマスとケーキ、お正月とお節せちなどのような、その行事に欠かせない食品として、恵方巻えほうまきが節分にふさわしいという新たな選択せんたくし肢しを紹介しょうかいして人々の食文化を豊かにするため。

問四 | 線③「日常的な消費財である食品」とありますが、その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どんな人がいつ来店しても需要じゅようを満たせるように、市場調査を通して開発された食品。

イ 毎日の忙しい社会生活に追われた消費者が、手軽に手に入れることができる食品。

ウ 季節性の強い商品に限らず、不特定多数の消費者が毎日買うことを前提とする食品。

エ 食品添加物てんかぶつを多く使うことで生産コストが抑えられ、安価で手に入れやすい食品。

オ 売れ残って食品ロスとなることを防ぐため、消費者に人気のものでだけを厳選した食品。

問五 ―線④「兵器」とありますが、この語を用いて説明される「砂糖と油脂と塩」はどのようなものですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア コロナの影響により停滞する食品産業を市場経済の中で復活させるための道具。

イ 必要以上に食べさせて消費者の身体を壊すほどに、菓子類に依存させるための道具。

ウ 商品を選ぶ立場として優位に立つ消費者へ、販売側が対抗するための道具。

エ 生産にかかるコストを抑え、食品を生産する農業従事者を救うための道具。

オ 消費者の食欲を刺激し、同業他社より利益を得る経営戦略のための道具。

問六 資本主義経済における企業側の目的と戦略を五十字以内で説明しなさい。

問七 空らん「⑤」に入る言葉として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア だがしかし イ だからこそ ウ 意外にも

エ なぜならば オ ひどいことに

問八 ―線⑥「金融取引はマネーゲーム」とありますが、ここという「マネーゲーム」の説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 子どもでも遊べるおもちゃと同じく、誰でも簡単に素早くお金が稼げる装置。

イ 依存性が高く、のめりこむと人間を強欲な性格に変えてしまう危険な遊び。

ウ 形を持たない情報を頼りにしながら工夫して儲けを目指す投資家たちのかけひき。

エ 現実の世界での操作から切り離されて想像の中でのみ行われる気軽なやり取り。

オ 物質としての金ではなく、紙や鉄などできたものをお金として扱うもの。

問九 本文全体の内容を説明した文章として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 身近な例を用いて消費者の需要が刺激されてモノが買われていく様子を説明し、企業側の立場からその理由を分析しつつ、お金を出して消費するモノだった食品がまるでお金そのもののように市場で取引されているのが現代の経済社会であると述べている。

イ アルバイトや季節のイベントを例に挙げて身近な消費生活を列挙し、日本の今までの外交史に沿って近代の大量消費社会を説明し、このような近代資本主義の欠陥として、実際にモノが存在しないにもかかわらずゲーム感覚で金銭の取引をする様子に触れている。

ウ 恵方巻などの身近なイベント食の例を挙げながら、大量に生産して大量に売りつけ利益だけを追求するという近代資本主義社会の問題点を明らかにすることで、取引価格の急な変化に振り回される市場の混乱がおさまり物価高も元に戻るだろうと述べている。

エ モノを売ったり買ったりする日常的な経済生活は、消費者の需要により左右されると見せかけながらも生産者の都合が優先されると述べ、本来売り買いの対象であるはずのモノにお金と同様の価値を持たせた現在の市場が、生産者を優遇している点に触れている。

オ 日常的に売り買いする食品は、過剰に需要を刺激されたもので、消費者は企業に不要不急の購買をさせられているのだと批判する一方で、近代資本主義社会ではモノを売るのが難しいため、現実のモノを持たない金銭の取引が積極的に行われていると述べている。

三

次の文章を読んで、後の一から十までの各問いに答えなさい。

(ただし、字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。)

塾^{じゅく}の一時間目は村田^{むらた}先生の授業^{じゅぎょう}だった。

(中略)

「石油は、プランクトンなど大昔の生き物からできたものです」

うなずきながら、あたしは石油のこと、石油から作られる灯油のことをぼんやりと考えはじめる。

寒いときはエアコンではなく、ファンヒーターでもなく、ガラスのほやがついた石油ストーブにあたたまるのがいいな。

火がついたばかりの匂い^{にお}もいいし、女王様のティアラみたいに燃^もえる火はとてもきれいだもの。

α窓^{まど}から見える空には雨雲が広がっていく。

あたしの空想も広がっていく。

そうなんだ、生き物は石炭になったり石油になったりするんだ。

おばちゃんの家のマグノリアの木は石炭になり、猫^{ねこ}のムンクは石油になる。

遠くでかみなりの音がかすかにきこえた。

そしてあたしは……あたしも虹色^{にじいろ}にかがやく石油になる。

石油は透明^{とうめい}な灯油になり、どこかの家に運ばれる。どこかの家であたしはブルーとオレンジの輪っかになってちらちら燃^もえる。

するとだれかがあたしの前で手をかざす。そして紅茶^{こうちゃ}をのんだり、おしゃべりしたり、ほかほかとあたたまっては幸せな気分になるんだ。

あたしはいつか石油になりたい。そうすれば、あたしがいたことにも意味がでるもの。

b 遠くの空で稲妻が光っていた。

塾の帰り、ぽつぽつと小雨が降りはじめた。あたしたちはかばんを頭の上にかざしてバス停まで走っていった。

塾からは市内をまわる循環バスで帰る。家までは歩ける距離なのだけれど、帰りだけはみんなと同じバスを使っていた。あたしのほかに五人の女子が同じバスにのる。あたしがおりののは家に近い五丁目のバス停ではなく、ひとつ先、きいちゃんと千夏の家に近い六丁目のバス停だ。六丁目のバス停前には大型スーパーがあつて、そこであたしたちは雑誌を立ち読みしたり、ジュースをのんだりする。

凛さんだけがひとつ手前、五丁目のバス停でひとりでおりの。

雨が降りはじめたバスの中は混雑していた。

大きくバスがゆれると、千夏が凛さんのほうへだれかを押す。押された人は足をふんばる……拒食症ごっこ。凛さん自身もそのゲームに参加しておもしろがっているようだ。やせていることを自分のウリにするのもひとつの手。ときにはそれでわらいもとれる。それくらいはいくらマイペースな子でも学習する。

凛さんが細い腕をのばすと、みんながバリアをつくる。タッチされてもまただれかにタッチしてまわせばセーフ、拒食症の伝染はまぬがれる。

c 稲妻が窓ガラスの中をギリギリと走った。

あたしは外をながめた。暗くなったガラスに凛さんのすがたがぼやけてうつっていた。窓の中で彼女はまっすぐに立っている。

① 倒れないよう両足を広げて。
凛さんならぎりぎりまで倒れないだろうな。それでももちこたえられないときは、立った姿勢のままで倒れちゃうんだ。きつと、前に向かって。

d 水滴が、ちいさいへびみたいにガラスの上をジグザグにすべっていく。

こちらを見ていた凧さんと窓の中で視線が合った。

ほんとうはあたしではなく、ガラスの向こうの何かを見ていただけなのかもしれない。でも、凧さんの目は静かにあたしを透かしていた。すると②あたしの心がちぎれていく。ソーダ水みたいにシャワシャワとかすかな音をたてて。

かみなりの音がきこえる。

もうすぐ家の近く、凧さんがおる五丁目のバス停。そのつぎがみんながおる六丁目のバス停。

凧さんは強いから平気でいられる。どうせ子どもっぽいわがゲームだとわりきっているんだ。そう考えていたときはしゃいだ声がきこえ、千夏の手が腕にふれた。タッチがあたしにきたのだ。

ゲームを続けなきゃ。すぐにだれかにまわさなきゃ。まよっていると車内が一瞬、かみなりの閃光につつまれた。

e つづいてドーンと音がした。

青白い光にさらされた光景はストロボライトをあびたみたいにかびあがり、一瞬、時がとまったように見えた。あわてて外目をやった。しかしガラス窓は外の景色ではなく、鏡のようにはっきりと車内をうつしだしていた。あたしは目を見ひらいた。

千夏もきいちゃんもほかの人もバスの窓にはうつっていない。凧さんとあたしだけが、③ガラスの中の世界にいた。

ふたりだけのバスは寒々としていた。エンジンの音も車内のさわがしさも耳から遠ざかった。音のない世界の中で、窓にうつった凧さんは平気な顔などしていなかった。

凧さんは泣いていた。

細い手であたしにすがりつき、しきりに何かを言いながら凧さんは泣きじゃくっていた。涙がめがねの下からほおをつたって落ち、きゃしゃなあごの先にぽたぽたとしずくとなって光っている。しゃくりあげるたびに薄い肩が大きく動く。

そして、あたしはそんな凧さんの腕をふりはらっている。目をつりあげ、口をきつくむすんで、すがりつく凧さんをつきはなし

ているのだ。

あたしにもほんとうはわかっていた。人間は石油になんてなれない。たとえ、なれたとしたってだめなんだ。死んだあとにだれかをあたためたからって、今していることがチャラになんてならない。生まれてきた意味なんて、自分で見つけなきゃするんだ。

バスのエンジン音もどった。車内のさわがしさがいっぺんに耳に押し寄せてくる。

窓の中にはそのままの車内がもどっていた。泣いた凜さんも、いじわるなあたしも、ガラス窓の中から消えていた。鏡に思えた窓は、ただのくもったガラスでしかなかった。

「かみなり、ちよう近くなかった?」「まじ、びびったよねえー」みんなはひとしきりさわいだあとに、またもとのゲームにもどった。「灯子の番だよ」千夏がそう言ってあたしを見た。あたしがだれかにタッチするのをまっている。

バスの中は息ぐるしかった。もうおりたいと思った。みんながおりるバス停でなく、あたしのほんとうのバス停で。

そうしないと④もう二度とおりられないような気がした。たとえ大人になっても、十二歳のあたしはこの循環バスに残り、夕闇の町の中を永遠にぐるぐるまわり続けるんじゃないかって気がした。

あたしはタッチされた手をバスの停車ボタンにのばした。

みんなが顔を見合わせる。ボタンは遠くにあった。手が届かない、⑤まっ暗な宇宙のはてにあるくらい遠くに思えた。

バスはカーブにさしかかり、そこから先の道はふた手に分かれている。

ボタンに指がふれた。

思いきってぐっと押した。⑥赤い星のように停車ランプはかがやいた。

——つぎ、とまります。

*無機質な声が車内にひびく。カーブのゆれて、つり革につかまっていたみんなが安っぽいあやつり人形のようにそろってグラリとよろめいた。

あたしは足をふんばった。前の道をぐっとにらみ、⑦倒れないよう必死で足をふんばった。

凧さんはまっすぐに立っている。そのうしろ、五丁目のバス停のあたりが薄闇の中にうかんで見えた。小さな声だったけれど、あたしはみんなに向かって言った。

「あたし、今日はここでおるから」

それから凧さんに顔を向けた。

「凧さん、あの、とちゅうまでいっしょに帰らないかな」

みんなはポカンと口をあげ、凧さんはびっくりしたようにこっちを見つめている。

バスはとまった。

あたしはゆっくりとステップをおり、凧さんがあとに続いた。ほかの乗客もそのあとにおりてくる。おりた順のまま、凧さんはあたしのあとを歩く。そして、うしろから傘をさしかけてくれた。でも、傘は重いのかどんどん角度を下げていき、あたしの頭にかぶさり、とうとう顔のまん前をかんぜんにふさいでしまった。

あたしはふりかえって言った。

「傘、ありがと。でも、前がぜんぜん見えないんですけど」

「うん、わざと」めがねの奥の目がじっと見つめた。「さっきの仕返し」

「え、さっきって」思わずき返した。「仕返しって？」

凧さんははっとしたような顔をした。それからゆっくりと首をかたむけた。

「なんだろ。なんだか、一瞬そんな気がしたんだけど……わかんない。ごめん」

ガラス窓の中に凧さんもあたしと同じものを見たのだろうか。

「ほんと、どうしちゃったんだろう」と言いながら、凧さんは髪をぼりぼりとかきはじめた。そのひょうしにめがねがずり下がっ

た。

そんな⑧間のぬけた凜^{りん}さんのすがたを見たのははじめてだった。あたしはふきだしたいのをがまんして、傘^{かさ}の柄^えをつかむとまっすぐに立てなおしてやった。

凜^{りん}さんはあわててめがねを直した。それから照れたように少しわらった。

切れ長の目は、わらうとまっげが下向きになるのをはじめて知った。

雨がやんでいるのに気づいたけれど、傘^{かさ}をたたまないでいた。傘^{かさ}の中にやどったものの、
⑨「をそのままにしておきたかった。」

ふたり並^{なら}んで傘^{かさ}をさし、雨のあがった町を歩きはじめた。

バスは時間調整を終えて発車した。ふりむくと窓^{まど}の向こうにみんなの顔があった。

千夏^{ちなつ}がこちらを向いているのがわかった。車内灯のせいか千夏^{ちなつ}の顔はひどく青白く見えた。

（『夕暮^{ゆうぐ}れのマグノリア』 安東^{あんどう} みきえ）

（注）

* 無機質な——生命活動とは無関係な、生物的な特性を持たないもの。感情^{けっじョ}の欠如^{けつじョ}した状態。

問一 ―線①「倒れないよう両足を広げて」、―線⑦「倒れないよう必死で足をふんばった」とありますが、この二カ所の説明とし

て最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ①は意地でも人には頼るまいという凜さんの気持ちの表れで、⑦は凜さんのように強い人になりたいと思っている「あたし」の気持ちの表れ。

イ ①はつらいことを一人で抱え込む凜さんの気持ちの表れで、⑦はつらいことを初めて乗り越えようとしている「あたし」の気持ちの表れ。

ウ ①は周囲から避けられないように自己防衛する凜さんの気持ちの表れで、⑦は周りからの非難は受けまいとする「あたし」の気持ちの表れ。

エ ①はつらさを誰とも共有できず孤独にたえている凜さんの気持ちの表れで、⑦は自分の意志を貫こうとしている「あたし」の気持ちの表れ。

オ ①は寂しさを必死にこらえている凜さんの気持ちの表れで、⑦は今後仲間から離れる寂しさを覚悟している「あたし」の気持ちの表れ。

問二 ―線②「あたしの心がちぎれていく」とありますが、この時の「あたし」の感情の説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 凜さんが「あたし」のことを責めているので、居心地の悪さを感じている。

イ 凜さんの泣き顔が「あたし」に助けを求めているようで、心苦しさを感じている。

ウ 凜さんの「あたし」に対するまなざしを意識して、うしろめたさを感じている。

エ 凜さんが笑顔なのに「あたし」をにらんでいるようで、恐ろしさを感じている。

オ 凜さんが外を見るふりをして「あたし」を見ているので、こわさを感じている。

問三 ―線③「ガラスの中の世界」とありますが、どのような世界ですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から

一つ選び、記号で答えなさい。

ア 凛^{りん}さんは決して本心を明かすつもりはないけれど、実は凛^{りん}さんが抱^{かか}えている様々な苦^く悩^{のう}を映し出している世界。

イ 「あたし」は目をそむけたいけれど、本当はこれが事実なのではないかと「あたし」自身が思っている世界。

ウ 「あたし」はまだ変わりきれていないけれど、自信を持って事実とは異なる光景だと言い切ることでできる世界。

エ 「あたし」は理想に近づこうとしているけれど、実際にたどり着くのは難しいということを表している世界。

オ 凛^{りん}さんは現実から逃^にげ出^だしたいと思っているけれど、その向き合わなければならない現実が映し出された世界。

問四 ―線④「もう二度とおりられないような気がした」とありますが、その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 物事をゲーム感覚で捉^{とら}える不誠実な人になってしまったような気がした。

イ すぐに周囲に同調する優柔不^{ゆうじゅうふ}断^{だん}な人になってしまったような気がした。

ウ 自分の心に従って判断することができない人になってしまったような気がした。

エ 一生、他者からきらわれ続けて過ごすことになってしまったような気がした。

オ 他者の言いなりになる生き方から抜^ぬけ出^だせなくなってしまうような気がした。

問五 ―線⑤「まっ暗な宇宙のはてにあるくらい遠くに思えた」とありますが、この時の「あたし」の感情の説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 友人たちとは別の、凛^{りん}さんと同じバス停で降りる決断をするにはとても勇気が必要だった。

イ 自分で判断して行動できたことで、遠いと思っていた大人の世界に近づいたような気がした。

ウ 自分がいくらゲームを抜け出^だそうとしても皆^{みな}が妨害^{ぼうがい}し、抜け出^だせないことに悔^くしさを感じた。

エ 自分が何をしようとしているのかわからなくなり、闇^{やみ}の中にいるようで不安でいっぱいだった。

オ 皆^{みな}の輪の中に割って入って手を伸ば^のすことは、友人たちの邪魔^{じゃま}になるのでためらわれた。

問六 ―線⑥「赤い星のように停車ランプはかがやいた」とありますが、この表現はどのようなことを暗示していますか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「あたし」が仲間から抜^ぬけたことで起こるもめごとに対する警告を暗示している。

イ 「あたし」自身迷いながらも正しい行動がとれたことへの達成感を暗示している。

ウ 今後友達の「あたし」への扱^{あつか}いが悪くなることを知らせる赤信号を暗示している。

エ 「あたし」の良い行動により友達も優しくなっていくという予兆を暗示している。

オ 正しいことができた輝^{かがや}かしい「あたし」に対する一般客からの称賛^{しょうさん}を暗示している。

問七 ―線⑧「間のぬけた凛^{りん}さんのすがたを見たのははじめてだった」とありますが、凛^{りん}さんの姿は「あたし」の目からどのように見えたのですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 常に自分を抑^{おさ}えて我慢^{がまん}してきた凛^{りん}さんが、自分の感情をストレートに激しくぶつけることができているように見えた。

イ いつも気を張って周囲の人たちに本心を隠^{かく}してきた凛^{りん}さんが、気を許して自分の心を表現できているように見えた。

ウ 何事も自立して対処してきた凛^{りん}さんが、時には人に頼^{たよ}るほうがうまくいくということに気づきはじめたように見えた。

エ 周囲の人たちから逃げて一人でいようとしていた凛さんが、緊張から解き放たれて人とかかわっているように見えた。
オ 本当は辛いのに自分を笑いの対象にして場をやりすごしていた凛さんが、笑われるのを拒んでいるように見えた。

問八 本文の構成について、後の各問いに答えなさい。

(i) 本文の展開をたどっていくと、場面が大きく変化するのはどこですか。その部分の描写として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ―線 a 「窓から見える空には雨雲が広がっていく」

イ ―線 b 「遠くの空で稲妻が光っていた」

ウ ―線 c 「稲妻が窓ガラスの中をキリキリと走った」

エ ―線 d 「水滴が、ちいさいへびみたいにガラスの上をジグザグにすべっていく」

オ ―線 e 「つづいてドーンと音がした」

(ii) (i) で解答した部分の描写の後の場面展開でどのような変化があったのですか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「あたし」がふとした時に憂鬱な気分になり、その後急に感情が高ぶるようになった。

イ 「あたし」が客観的な視点を持てるようになり、物事の理解力が深まるようになった。

ウ 「あたし」が日常の中で我に返り、自分の利害を最優先に考えて行動するようになった。

エ 「あたし」が現実世界の醜さを知り、そこから逃避して理想を追いかけるようになった。

オ 「あたし」が自分の実情に気づいて衝撃を受け、誠実に自身に向き合うようになった。

問九 本文の展開をふまえ、空らん「㊦」に入る言葉として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア やさしくあたたかいもの

イ ふかくしっとりしたもの

ウ まるくぼんやりしたもの

エ あまくせないもの

オ かるくはじけたもの

問十 二重線「あたしはいつか石油になりたい。そうすれば、あたしがいたことにも意味ができるもの」とありますが、「あたし」は後でどのようなことに気づきましたか。「石油になりたい」とはどのようなことをふまえた上で、六十字以内でまとめなさい。

